

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC News No. 89を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

■随想

◇バスケット勝負！ 一脱サラ、渡米、プロ選手ー（2）（終）

プロバスケットボール選手 松田 鋼季

■編集後記

■トピックス

◇PVC News No. 89を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

6月12日に塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は[PVC News No.89](#)を発行しました。今号の「トップニュース」は、4回目を迎えたデザインアワード2014のスタートを紹介をしています。

No. 89号の構成は以下の通りです。

○トップニュース

「PVC Design Award 2014」開幕！

ー テーマは“I WANT THIS!” 一目で「欲しい!」と思わせる作品を募集 ー

○シリーズインタビュー/さきがけびとにきく

建材リサイクル研究の近況

ー 塩ビ管排出実態～材料開発まで。気鋭の研究者が語る建材リサイクルの動向 ー
明治大学 理工学部 建築学科 教授 博士（工学） 小山 明男 氏

○リサイクルの現場から

(株)京都環境保全公社の塩ビ壁紙リサイクル事業

ー 熱して削る。独自の発想で塩ビと紙を再資源化する注目の新技術に迫る ー

○インフォメーション

1. 下水道用塩ビ管、埋設後35年経過でも「異常なし」

ー 習志野市の復旧工事で掘り出された塩ビ管を調査。改めて「耐久性」実証 ー

2. Mikke Remikke の楽しい世界

ー アート&デザインユニット「wm,」が生み出すユニークな作品の数々 ー

○ものづくりの現場から

空飛ぶマネキン「AIRQUIN」誕生物語

ー 優美なフォルムで、華やかに店舗空間を演出

驚異のマネキン革命はいかにして実現したか？ ー

○海外事例紹介

ブライトン会議（PVC2014）の会場から

－ 世界最大の塩ビフォーラム。新製品開発、リサイクルなどめぐり意見交換 －

○講演会レポート

JPEC 研修会、東京・大阪・名古屋で連続開催

－ 「経営とデザイン」をメインテーマに。各地の塩ビ関係者らが熱心に聴講 －

○広報だより

- ・〈Future Beauty〉展で、mame ブランドの透明塩ビバッグが話題
- ・今年も集合！「集まれ塩ビ管スピーカー 関東オフ会 2014」開催

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

「さきがけびとにきく」は明治大学の小山先生に登場頂きました。小山先生は明治大学の理工学部建築学科教授でコンクリート、木材、プラスチック建材のリサイクル研究をされています。今回は解体工事での塩化ビニル管・継手の排出実態調査に参画し、解体時の塩ビ管の排出量・どのくらいの手や時間がかかるか、など実態を把握する貴重な調査とのこと。

リサイクルについては塩ビの建材でも床材・壁紙・防水シートなど色々あり、床材は床材に、壁紙は壁紙に戻すのではなく複合的にリサイクル出来るような研究を当面の目標とされています。

「リサイクルの現場から」は、(株)京都環境保全公社の塩ビ壁紙リサイクル事業を紹介します。

京都環境保全公社は京都の有力企業が出資し、さらに京都府と京都市も出資しているという、民間の産廃処理事業に行政が資本参加する珍しい会社です。

壁紙のリサイクルは叩いて分解する、酵素で分解するなど様々な方法がありますが、今回紹介するのは熱して削る方法です。壁紙を加熱した回転式ドラムに巻きつけて、柔らかくなった塩ビ層を厚さ数ミリの金属刃でひも状に削り取っていく技術です。コンパクトなシステムなので今後の壁紙リサイクルに期待が持てそうです。

「ものづくりの現場から」は空飛ぶマネキン「AIRQUIN」誕生物語。AIRQUIN は昨年のデザインアワード 2013 の大賞を受賞した作品です。自由に持ち運び出来るだけでなく、店舗上部の空間にもディスプレイできる機能性、人のフォルムをきちんと表現できるデザイン性などの特長があります。

開発をスタートしたのは 2007 年。試行錯誤を重ね、本格販売が始まったのは 2010 年末。三年の歳月をかけた自信作。今後はファッション・アパレルなど従来の業界の他に、新たな取り組みとして医療介護業界の介護実習現場での活用など、今後の展開を明るく語って頂きました。



「AIRQUIN」

『PVCニュース』は[JPECのホームページ](#)から、最新号、バックナンバー共にご覧いただけます。

ご購読を希望される方は、[こちら](#)まで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

■ 随想

◇バスケで勝負！ 一脱サラ、渡米、プロ選手ー（2）（終）

プロバスケットボール選手 松田 鋼季

2011年11月、地元北海道のテレビ局を退職し、プロバスケットボール選手としてアメリカに渡りました。日本での見送りには、家族、友人、スポンサー、テレビ局の取材など大勢の人が駆け付けてくれて激励の言葉をもらいました。「本当にプロになってアメリカに単身渡るんだな」と実感しました。

新東京国際空港からおよそ13時間、アメリカ・シカゴについたときの第一印象は北海道と同じくらい寒いということでした。また、大学生の時にロサンゼルスに留学経験はあるものの、英語を流暢に話せるわけではなく、タクシー乗り場に行くのも一苦勞でした。到着した日からチームに合流し、練習が始まりました。「練習はどんなことをやるのだろうか?」「日本と違うのだろうか」など色々な不安と期待が入り混じり、自身初のプロ選手としての練習を迎えたことを今でも鮮明に覚えています。

練習は過酷を極めました。2つの意味での厳しさがそこにはありました。1つめは個人能力です。僕が得意としているプレーは3ポイントシュートといういわゆるロングシュート、そして得点につながるアシストパスです。2メートル以上の身長があり、身体能力が高い黒人選手たちのディフェンスをかいくぐりシュートを打つのは至難の業です。体をぶつけ合うだけでも、体力がどんどん消耗し、思い通りのプレーができないということが多々ありました。この経験は日本ではあまりなかったことです。2つめは、いつ解雇されるかわからないということです。試合や練習でコーチ陣にアピールできなかった選手や怪我をした選手は、即日解雇が言い渡される厳しい世界です。コーチ陣も当然、チームから雇われているわけですから、勝敗が自身の給料や次のシーズンの契約に直結するため、とてもシビアな決断を常にします。



僕は、練習で試行錯誤を繰り返しながら試合に出場することができるレギュラーメンバーに選ばれることができました。プロ人生初の公式戦はベンチスタートでした。自分の出番を待っているときに「コウキ、ゴー」というヘッドコーチの声が響きました。「どうしたら目立つか?活躍できるか?」ということで頭がいっぱいで、それほど緊張はしていませんでした。味方選手から良いパスをもらい、得意の3ポイントシュートを決めることができました。シュートを決めた瞬間の嬉しさは本当に最高でした。チームも勝ち、「これで本当にチームの一員になれた」と感慨深かったです。

その後、試合を重ねるごとに出場時間も増え、チームにおける自分の役割と同時に、活躍するための活路を見出しました。それは原点に帰り「日本人らしくプレーする」ということです。アメリカ人選手には予測できないタイミングでシュートを放つ。日本人らしい繊細で正確なアシストパスを繰り返す。縁の下の力持ちとして、目立たないがディフェンスを頑張るといことです。それからは好調を維持し続けることができました。

しかし渡米から2ヵ月後の2012年1月、練習中に左足を怪我してしまいました。一人で歩くこともできず「このまま解雇になってしまうのか」と不安でいっぱいでした。しかし、解雇されることはなく、およそ1ヵ月間のリハビリでコートに立つことができました。

チームも順調に勝ち続け、1シーズン目は地区優勝、全米4位という好成績で終わることができました。

2シーズン目の契約も締結し、プロ1年目はとても良い形で終わりました。ただ、優勝はしなかったですし、目標としているNBAからスカウトの声はありませんでした。

シーズンオフは日本に帰り、トレーニングによる肉体強化、学生向けのバスケットボール教室、そしてスポンサー集めに奔走しました。トレーニングでは屈強なアメリカ人を相手に試合中何度も跳ね飛ばされ、体勢を崩し、ミスをしてしまったので肉体改造に取り組みました。また、同時にアメリカのバスケット生活で培った技術や精神を次世代である学生たちに教えることによって、日本のバスケットボールの向上になり、僕自身の考えの整理にもつながるからです。そして、個人トレーナーや渡米費用など捻出のために、多くの企業や個人の方を訪問させていただき、スポンサー協力の依頼をさせていただきました。

色々な場面で多くの人やファンの皆さまとお会いすることができて、とてもよいシーズンオフを過ごすことができました。

2シーズン目は、肉体改造が功を奏し、大きな怪我をすることなく1シーズン目よりも安定したプレーをすることができました。1シーズン目に引き続き、地区優勝、全米4位でした。

今現在、僕は勝負の3シーズン目を迎えています。NBAを狙うには、年齢が大きく関係するからです。ほとんどのNBA新入団選手が20代前半です。29歳の僕にとって、今が正念場です。過去3シーズンの中で最もコンディションが良く、理想に近いプレーができています。

これからも全力でプレーし続けて、NBAの扉をこじ開けたいと考えていますのでご声援よろしくお願いいたします。

これを見れば、今の私がかかりますので、併せてご覧ください。

<http://www.youtube.com/watch?v=bzKKBUHdimk>

(終)

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

メルマガ編集に関わる際にニックネームを、塩ビの復活、郷里の震災復興を祈念して、「再生」を花言葉にもつ<鈴蘭>としましたが、どうも女性と勘違いされている方もおられるかなと思い、趣味の<風蘭>に変えます。日本の野生の蘭が江戸時代に園芸品種として改良され、現在に至っている蘭です。成長は遅く、1年で2~3枚しか生えませんが、花は毎年咲きます。花言葉には、「真の魅力」なる意味もあるようです。あやかって、塩ビの本当の良さを伝えていきたいと思えます。(風蘭)



■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp
